

平成 25 年度入学者選抜試験
個別学力試験問題(後期日程)

総 合 問 題
(法文学部社会文化学科)

注意事項

1. 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題紙は 7 ページ、解答用紙は 2 枚、下書き用紙は 4 枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
3. 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
4. 答えは横書きとします。字数を指定したものは、特に指示がある場合を除いて、句読点を字数に含めて数えてください。なお、アラビア数字は 2 字で 1 字として計算してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 試験終了後、問題紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

1 次の文章を読み、後の問い(問1～問4)に答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(内田樹「活字中毒者は電子書籍で本を読むか？」を一部改変)

注) 愉悦：心から喜び楽しむこと

手沢：長く所持する間に付いたつや

遊弋：あちこち動き回ること

オン・デマンド：注文や要求に応じて商品・サービスなどを提供すること

タイムラグ：時間のずれ

本然：もともとからの通りであること

問 1 筆者は電子書籍の難点として、下線部①のように「どこを読んでいるかわからない」ということをあげているが、そのことがどうして難点であると言えるのか。筆者が根拠としていることを2つあげ、100字程度で述べなさい。

問 2 下線部②について、筆者が言う「こじつけ」とはどういうことか。説明しなさい。

問 3 筆者は、紙の本と電子書籍の特徴をどのように考えているか。本文全体から読み取れる筆者の考えを150字程度にまとめなさい。

問 4 下線部③のように、「紙の本はなくなる」と筆者は述べているが、書物の将来像について、筆者と異なる見通しを根拠をあげて論じなさい。字数は400字以内とする。

2 次の問1～4は生活困窮に関するものである。これらの問いに答えよ。

問1 図1は、生活保護を受けている人員数の推移を示したものである。同時に、景気の動向に関わるただし書きも挿入してある。図1を見て、生活保護の受給状況の変化について読み取れることを150字程度で述べなさい。特に、経済状況の動きと関連づけて述べなさい。

図1 生活保護の被保護人員数

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向2012』(平成24年)より作成

注) 景気動向に関わるただし書きは、たとえば「平成景気61-3」は、平成景気が昭和61年から平成3年までの間であったことを示す。

問 2 図 2 は、相対的貧困率という数値を用いて、貧困状態にある人の割合を、男女別および年齢階層別に示したものである。これを見て、現代日本の貧困の特徴について読み取れることを 100 字程度で述べなさい。

図 2 男女別・年齢階層別相対的貧困率(平成 22 年)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

内閣府 男女共同参画会議 基本問題・影響調査専門調査会 女性と経済ワーキング・グループの資料より作成

注) 相対的貧困率とは、可処分所得が、等価可処分所得(=世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分に満たない人の割合をいう。

問 3 現在の生活保護法は、下記の日本国憲法第 25 条に規定する理念に基づいて制定されている。この日本国憲法第 25 条が保障する権利を何というか。漢字 3 文字で解答欄に書きなさい。

第 25 条

- ① すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。
- ② 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

問 4 現代日本において、生活困窮の防止、ないしは貧困層への支援として、どのような取り組みが重要であると考えられるか。あなたの考えを 250 字程度で述べなさい。